

学童保育のあり方に関する自由記述の分析

An Analysis of Free Description about After-school Child Care

(2011年3月31日受理)

中 田 周 作

Shuusaku Nakada

Key words : 学童保育, PCソフト, 自由記述, カテゴリWeb, 質問紙調査

要 約

学童保育は、主として、小学校1年生から小学校3年生を対象にして、放課後の時間帯に子どもたちを預かり、保育している。共働き家庭にとっては重要なサービスであるが、実際には供給が不足している。こうした現状を受けて、現在、学童保育は急拡大を続けている。そうしたなかで、中心的な役割を果たしている学童保育の指導員たちは、将来の学童保育は、どういったあり方が望ましいと考えているのだろうか。本調査では、地方都市の2つの県内411のほぼ全施設を対象に質問紙調査を実施。各施設に対し2部ずつ質問紙を同封し、497部を回収した(回収率60.5%)。本稿では、このうち自由記述の回答を、PCのソフトを用いて分析をした。その結果、自由記述の内容のカテゴリ化からは、全体として、学童保育指導員は、「子ども」「指導員」「保護者・家庭」といった人に対する関心が高いことなどが分かった。分析方法に関しては、回答を単語ごとで分けていく作業が機械的に進められるため、再現可能性が高いことや、カテゴリ化の作業における試行錯誤が容易であることが分かった。

1. はじめに

現在、学童保育(放課後児童クラブ)は、主に小学校1年生から3年生が対象となっており、全国で814,439人¹⁾の児童が利用している。この学童保育は、現在、量的拡大が求められている。政策によって異なるが、例えば「子ども・子育てビジョン(平成22年1月29日)」では、「潜在需要を合わせると、平成29年度には40%に達すると見込まれていますが、平成26年度までに32%のサービス提供割合を目指²⁾す」とされている。児童数で見ると、現在の81万人から30万人増の111万人を受け入れることができる施設を設置するということになる。

このように、学童保育の拡大は極めて重要な子育て支援政策のうちの1つである。しかしながら、学童保育の法的な位置づけは極めて貧弱であり、1997年に、ようや

く児童福祉法に位置づけられた。国の学童保育制度の問題点としては、全国学童保育連絡協議会によると、「①公的責任があいまい」「②最低基準がつけられていません」「③予算措置があいまいで、補助金もたいへん少ない金額です³⁾」といったことが指摘されている。

こうしたことから、学童保育の現状は、地域の差が極めて大きくなっており、全国の学童保育を一概に論じるには困難な状況にあるといえる。そこで、今回は、地方都市のO県とT県の学童保育所に対するほぼ全施設を対象に調査を実施した。

2. 調査の概要

調査の時期は、2009年11-12月。O県289施設(同県子育て支援課から283施設を紹介された。このほか、調べ

ることができた県内の6施設を調査対象に追加。なお、2009年6月23日付の全国学童保育連絡協議会が報道関係社向けに発表した資料では、同県内の施設数は368となっていたが住所のリストを入手することができなかった。こうしたことも、学童保育の現状の一端をよく表している」と、T県122施設（同県のホームページに公開されていた施設名、住所を利用。2009年6月23日付前掲資料では、130施設となっている）で、合計411施設に対して調査票を2部ずつ送付。施設の中心となる指導員2名に回答を依頼した。回収率は、60.5%（497件）であった。

3. 分 析

本発表では、回収することができた497件のうち、自由記述の設問「あなたが理想とする学童保育のあり方について、自由に記述してください」の欄に何らかの記述があった219件を分析対象とした。

(1) 回答者の属性

回答者の属性等に関しては、表1～表10の通りである。表2と表3から40歳代から50歳代前半の女性が多いことが分かる。これに、表9から配偶者がいることと、表10から子どもがいることを加味すると、子育てが一段落した主婦層が多いことが分かる。また、表7、表8、表9からは、夫の扶養の範囲内の収入に抑えている様子もう

表1 県名

	度数	有効パーセント
○ 県	161	74.2
T 県	56	25.8
合 計	217	100.0

表2 性別

	度数	有効パーセント
男	8	3.7
女	210	96.3
合 計	218	100.0

表3 年 齢

	度数	有効パーセント
24歳以下	7	3.2
25-29歳	12	5.5
30-34歳	16	7.3
35-39歳	13	6.0
40-44歳	31	14.2
45-49歳	46	21.1
50-54歳	58	26.6
55-60歳	19	8.7
60歳以上	16	7.3
合 計	218	100.0

表4 雇用形態

	度数	有効パーセント
正 規 職 員	73	35.1
臨 時 職 員	12	5.8
非 常 勤 職 員	6	2.9
嘱 託 職 員	5	2.4
パート・アルバイト	89	42.8
有償ボランティア	23	11.1
合 計	208	100.0

表5 指導員経験年数

	度数	有効パーセント
1年未満	19	8.7
1年以上-2年未満	14	6.4
2年以上-3年未満	22	10.0
3年以上-4年未満	17	7.8
4年以上-5年未満	25	11.4
5年以上-6年未満	24	10.5
6年以上-7年未満	23	10.5
7年以上-8年未満	11	5.0
8年以上-9年未満	10	4.6
9年以上-10年未満	15	6.8
10年以上-11年未満	8	3.7
11年以上-12年未満	8	3.7
12年以上-13年未満	7	3.2
13年以上-14年未満	2	0.9
14年以上-15年未満	5	2.3
16年以上-17年未満	1	0.5
17年以上-18年未満	2	0.9
19年以上-20年未満	1	0.5
20年以上	5	2.3
合 計	219	100.0

表6 一週間の勤務時間

	度数	有効パーセント
5時間未満	9	4.1
5-10時間未満	18	8.3
10-15時間未満	18	8.3
15-20時間未満	46	21.2
20-25時間未満	54	24.9
25-30時間未満	26	12.0
30-35時間未満	24	11.1
35-40時間未満	10	4.6
40-45時間未満	10	4.6
45-50時間未満	1	0.5
50時間以上	1	0.5
合計	217	100.0

表7 兼業の有無

	度数	有効パーセント
兼業している	48	22.1
兼業していない	169	77.9
合計	217	100.0

表8 指導員の年収

	度数	有効パーセント
50万円未満	24	11.1
50万円以上 -100万円未満	60	27.8
100万円以上 -150万円未満	92	42.6
150万円以上 -200万円未満	26	12.0
200万円以上 -250万円未満	8	3.7
250万円以上 -300万円未満	4	1.9
300万円以上 -350万円未満	2	0.9
合計	216	100.0

表9 配偶者の有無

	度数	有効パーセント
配偶者あり	187	86.2
配偶者なし	30	13.8
合計	217	100.0

表10 子どもの有無

	度数	有効パーセント
子どもあり	179	83.6
子どもなし	35	16.4
合計	214	100.0

かがえる。

表4からは6割以上が不安定な雇用形態であり、表5をみると7年以上勤続している者は、あまり多くはなく一生涯をかけて勤める仕事にはなっていないことが分かる。

(2) 自由記述の概要

1) 質問の趣旨

今回の調査対象地域の学童保育の実態は、極めて貧弱な状態にあることが事前に分かっていた。しかしながら先述の通り、学童保育は、現在の子育て支援から考えても拡大が求められているサービスである。また、現状として拡大を続けていることも事実である。こうした状況のなかで、学童保育所において中心的な役割を果たしている指導員たちは、どのような学童保育があるべき姿と考えているのであろうか。こうした現場からの意見を分析することで、将来の望ましい学童保育のあり方を考察するうえでの基礎的データを蒐集することが、質問の趣旨である。

2) 作業の手順

今回の分析には、SPSS Text Analysis For Surveys 3.0 Japanese を使用した。これにより、最初にキーワードを拾い上げていく作業が自動化された。この作業にあたっては、辞書ファイルが用意されており、この辞書ファイルを、カスタマイズすることができるが、今回は初期設定のままで分析を行った。しかし、いずれにしても、キーワードごとに記述を分類していく作業は、手作業で行うよりも圧倒的に客観的かつ見落としが少なく、極めて短時間で作業を終了することができた。

3) カテゴリ化

次に、抽出したキーワードを類似する意味をもつグループごとに分けていくカテゴリ化を行った。この作業については、キーワードを基準にして、図1の形式で、自動的にSPSS Text Analysis For Surveys 3.0 Japanese が提示する。ここでは、あくまでも抽出したキーワードをベースにカテゴリ化しているので、カテゴリを修正していく作業は必須である。このカテゴリの再修正は手作業である。そのため、分析者の経験や知識に

基づく主観によって、分析の結果が異なってくる可能性は否定できない。しかしながら、PCの画面上では図1の右側に、記述内容を表示させておくことができるので、かなり作業を行いやすい。そのため、従来の手作業と比較すると再カテゴリ化を十分に行うことができるうえ、各カテゴリに含まれる回答数を間違いなく随時、把握することができる。



図1 カテゴリ化

4) カテゴリ Web に見るカテゴリ間の関連

ここでは、カテゴリ Web をみていく。カテゴリ Web とは、カテゴリ化の作業で作成したカテゴリ間に共通する回答の数を図示したものである。後掲の資料を参照すると、例えば、ID 5 の自由記述は、「子ども」「指導員」「施設」「運営体制・制度」という4つのカテゴリに属している。したがって、ID 5 からは「子ども」「指導員」「施設」「運

営体制・制度」の丸印と、その間の実線が1件の回答分として表示される。そして、これらを全て表示しても煩雑なので、いくつかの条件を設定し図示することにより、各カテゴリ間の関係が見えてくる。

図2は、「要望」というカテゴリを中心にカテゴリ Web を表示している。この「要望」というカテゴリは、他のカテゴリがキーワードをベースに作られたものであるのに対して、回答の意味内容から作成されている。この自由記述では、望ましいと考えられる学童保育のあり方について問うているので、この「要望」のカテゴリと関連のあるキーワードを見ていくと、どういったキーワードを用いて「要望」が語られているのかが分かる。

次に、実際に図2として、「要望」に関するカテゴリ Web を提示する。ここでは「要望」というカテゴリに属する回答間の全ての関係を示している。しかしこれでは、先述の通り、煩雑でカテゴリ間の関係を読み解くことが困難である。そこで、共通する回答が少ないカテゴリ間の関係を図から消していく。そうしてできあがったもの

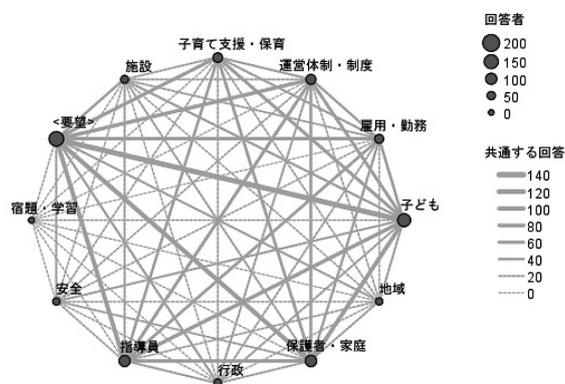


図2 <要望>に関するカテゴリ Web
ただし、全ての関連を表示。

が図3である。ここでは、共通する回答が62件以下の線を消している。こうすることにより、「要望」に関する記述には、「子ども」「保護者・家庭」「指導員」「運営体制・制度」「子育て支援・保育」という5つのカテゴリに関する内容が記述されていることが分かる。しかし、これらのカテゴリは、全体のなかでも記述が多いことは、図1からも明らかである。

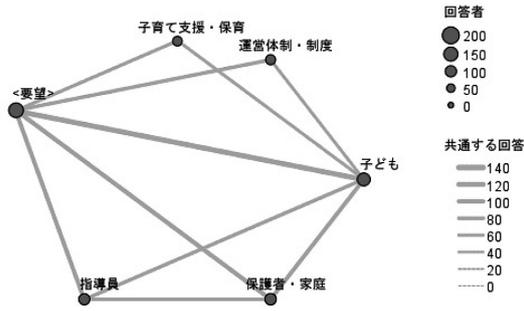


図3 「<要望>」に関するカテゴリWebただし、共通する回答が62件以下のものは除く。

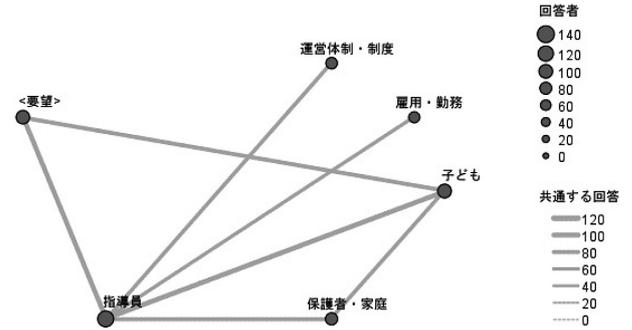


図6 「指導員」に関するカテゴリWebただし、共通する回答が66件以下のものは除く。

次に、カテゴリに含まれる回答の多い順に、「子ども」「保護者・家庭」「指導員」「運営体制・制度」に関するカテゴリWebを図4から図7に示した。これらを見ていくと、それぞれのカテゴリが、どのカテゴリと合わせて記述されているのかが分かる。同じ記述から導き出されたカテゴリの数が多ければ、それだけカテゴリ間の関係が深いと推察される。

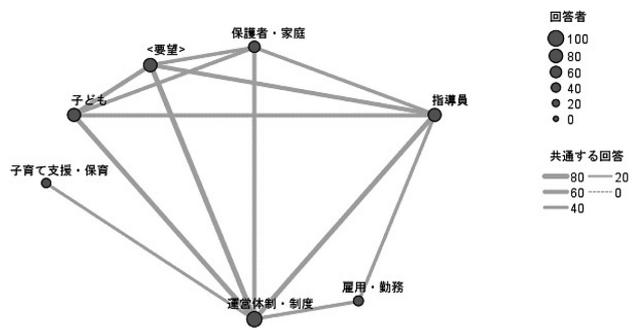


図7 「運営体制・制度」に関するカテゴリWebただし、共通する回答が38件以下のものは除く。

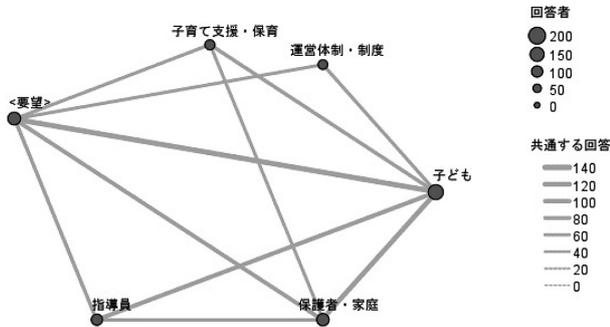


図4 「子ども」に関するカテゴリWebただし、共通する回答が62件以下のものは除く。

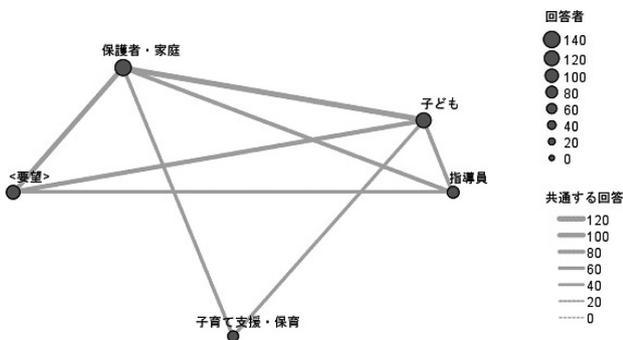


図5 「保護者・家庭」に関するカテゴリWebただし、共通する回答が62件以下のものは除く。

図8は、「子育て支援・保育」に関するカテゴリWebである。以下、「雇用・勤務」「施設」「安全」「行政」「地域」「宿題・学習」に関するカテゴリWebを図9から図14に示した。これらのカテゴリは、これまでのカテゴリと比較すると回答件数が少ない。したがって、図8はの「子育て支援・保育」に関するカテゴリWeb以降では、回答件数が多いカテゴリとの関係を表示していない。なぜなら、回答の多いカテゴリとの関係が深いのは当然だからである。それぞれのカテゴリから各カテゴリ間の関係を読み解くためには、カテゴリ間の関係が深いことが当たり前の部分を消した方が、カテゴリWebを読みときやすい。

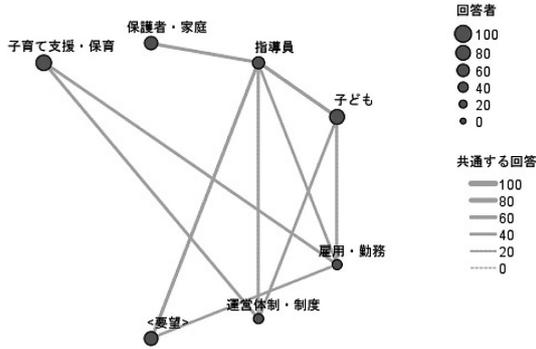


図8 「子育て支援・保育」に関するカテゴリWeb
ただし、共通する回答が52件から32件を表示。

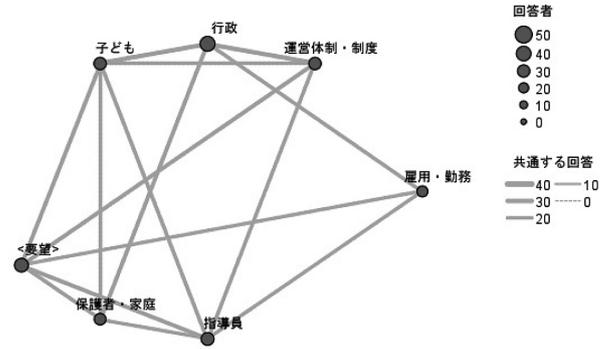


図12 「行政」に関するカテゴリWeb
ただし、共通する回答が21件から30件を表示。

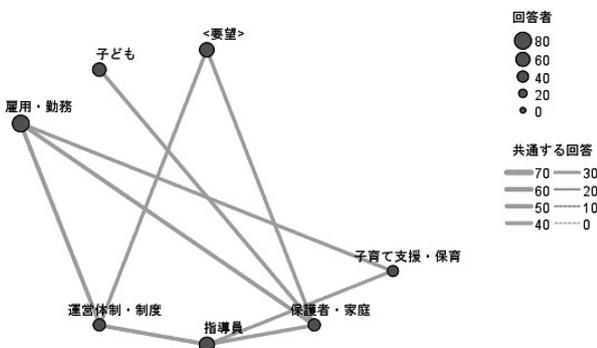


図9 「雇用・勤務」に関するカテゴリWeb
ただし、共通する回答が46件から34件を表示。

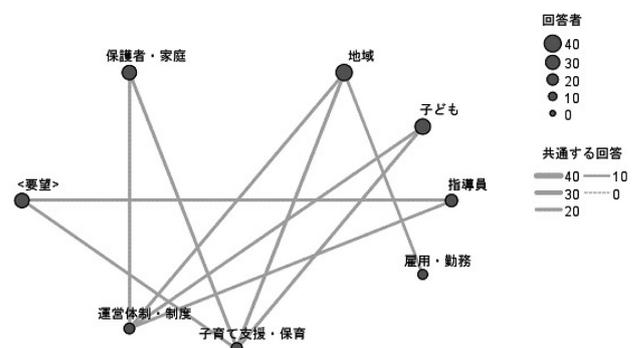


図13 「地域」に関するカテゴリWeb
ただし、共通する回答が15件から20件を表示。

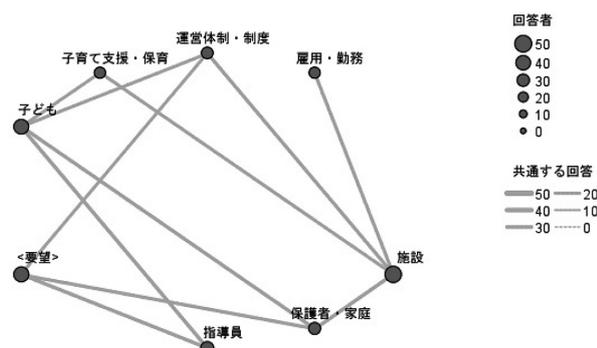


図10 「施設」に関するカテゴリWeb
ただし、共通する回答が23件から29件を表示。

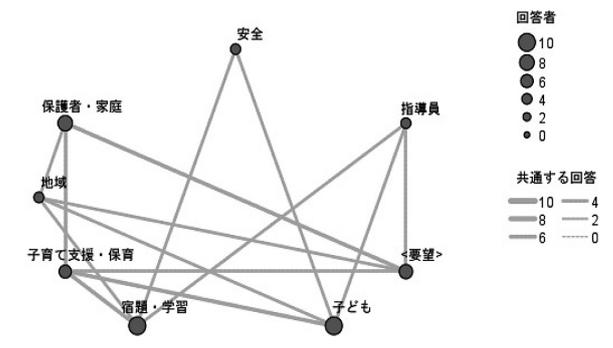


図14 「宿題・学習」に関するカテゴリWeb
ただし、共通する回答が4件から6件を表示。

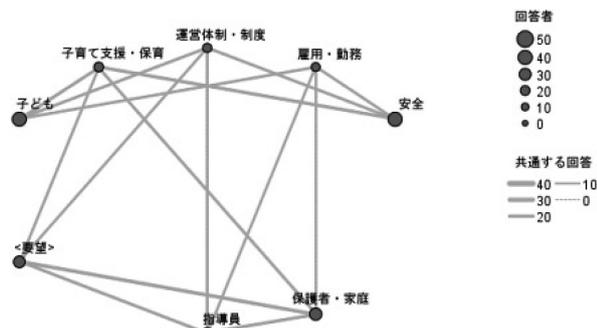


図11 「安全」に関するカテゴリWeb
ただし、共通する回答が14件から24件を表示。

4. ま と め

(1) 学童保育に関するまとめ

1) 属性に関するまとめ

- ①主婦が中心。夫の扶養の範囲内。
- ②不安定な雇用形態で、一生をかけて勤める仕事にはなっていない。中心的な立場の指導員も7年程度で退職をしている（指導員全体では3年以内で約半数が離職）。

③カテゴリごとに回答者の属性をみると、あまり差がない。

2) カテゴリに関するまとめ

①全体として、「子ども」「指導員」「保護者・家庭」といった人に関することが多い。学童保育の指導員の勤務時間は、子どもが学童保育所にいる時間帯のみに限定されることが多いため、特に人に関する記述が多いと考えられる。

②「宿題・学習」に関する記述が少ない。しかし、学童保育の実態としては、日常的に宿題を行っている。これは、質問で理想的な学童保育のあり方を問うていることから考えると、宿題をすることが、本来の学童保育の役割と考えられていないことが分かる。

③「地域」は、全体としての記述は少ないが、「雇用・勤務」「子育て支援・保育」「運営体制・制度」などとの関連が深いので、学童保育には、地域の支援もしくは関わりが重視されていることがうかがえる。

④全体として、「行政」「安全」「施設」に関する記述が少ない。学童保育の現状を考慮すると、学童保育の施設は極めて貧弱であり、行政の支援はまだ不十分であるといわざるを得ない。また、貧弱な施設は子どもたちの安全を確保する上でも支障をきたすことがある。このように考えると、理想的な学童保育を記述するうえで、もう少し、「行政」「安全」「施設」に関する記述があっても良かったのではないだろうかと考えられる。

⑤「運営体制・制度」と「雇用・勤務」から見たとき、「保護者・家庭」との関連は、単に「保護者・家庭」に関する記述が多いからだけではなく、地域運営委員会方式と関係があると考えられる。

⑥「子育て支援・保育」から見ると、「雇用・勤務」「運営体制・制度」と関係が大きい。これは、「子育て支援・保育」を可能もしくは充実するためには、現在の「雇用・勤務」体制、「運営体制・制度」では、困難である現状と関連があると考えられる。

⑦「雇用・勤務」から見ると、「子育て支援・保育」に関連があるのは、現状の「雇用・勤務」体制では十分な「子育て支援・保育」が困難である現状を反映していると考えられる。

(2) 分析方法に関するまとめ

今回の分析では、自由記述の記述内容をPCのソフトを用いて行った。これによるメリットや今後の課題は次の通りである。

①回答を単語ごとで分けていく作業が機械的に進められるため、再現可能性が高く、間違いが少ない。時間という観点から考えると、手作業と比較すると驚異的な時間短縮が可能である。そのためこうした点での、メリットは極めて大きい。しかしながら、今回の分析においては、単語ごとで分けていくための根拠となる辞書ファイルの設定をデフォルトのままで行った。このことが、あとの分析にどのように影響してくるのか、今のところ不明である。

②カテゴリ化の作業における試行錯誤が極めて容易である。カテゴリを作っていくうえでは、当然のことながら試行錯誤が伴う。しかし、一度、カテゴリを変更すると、再度、全ての回答に目を通して、各カテゴリに分類していく作業をしなければならない。それゆえ手作業では、度重なる試行錯誤には時間的制限がつきまとい、かつ、見落としなどが生じる可能を否定できない。しかしながら、ソフトを利用することで、カテゴリを変更することによる再チェックなどの時間的制約が極めて少なくなる。さらに、手作業では、新規カテゴリの設定を、多くの回答を見ながら決めていくことになる。その一方で、このソフトでは、新規カテゴリを作るときに、回答者の属性やカテゴリWebを参照することができる。

③カテゴリごとの属性を簡単に見ることができる。手作業で行っても、この作業自体は単純なものであるが、膨大な時間を要するため、通常の手作業による分析では、ほぼ不可能であろう。しかし、今回の分析では、属性ごとの回答の差があまり明瞭ではなかったので活用できなかった。1つの原因として、学童保育の指導員の属性自体に大きな偏りがあることが指摘できる。そのため、今回の分析では用いていないが、学童保育に関する考え方の違いが明らかとなる質問項目などを独立変数として設定すれば、興味深い分析が可能であろう。

④カテゴリWebの表示機能は、カテゴリ間の関係を見るうえで極めて有効である。しかし、当然のことながら、

回答数が多いカテゴリとの関係が強く反映される。そのため、どの範囲の回答件数で、カテゴリWebを表示させるかについては慎重に検討する必要がある。

⑤カテゴリ化したデータは、数量的なデータに置き換えることができる。この機能は、今回の分析では利用していないが、自由記述から拾い上げたカテゴリ等のキーワードは、十分な予備調査が実施できていれば、通常の質問文のなかに取り入れることができる。したがって、通常の質問文では拾いきれない範囲で活用しなければ意味がないのかもしれない。

注)

- 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局育成環境課調べ。
平成22年5月1日現在。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000000ukvz.html>を参照。

- 2) 「子ども・子育てビジョン～子どもの笑顔があふれる社会のために～」平成22年1月29日閣議決定。別添17頁より引用。

[3\) 「国の学童保育制度の問題と課題」\(全国学童保育連絡協議会 2009年12月4日\)資料1「国の学童保育制度の問題点」より引用。](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/vision-zenbun_0001.pdf#search='子ども・子育てビジョン(平成22年1月29日)'>http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/vision-zenbun_0001.pdf#search='子ども・子育てビジョン(平成22年1月29日)'を参照。</p>
</div>
<div data-bbox=)

<http://www2s.biglobe.ne.jp/Gakudou/2009youseikoudousiryou.pdf#search='国の学童保育制度の問題と課題'>を参照。

資料 自由記述の一覧

ID	回答	カテゴリ
5	子どもたちが伸び伸び遊べる空間があり、指導員もゆとりを持って接することのできる学童。指導員の体制が十分整い、ずっと続けていける学童。	子ども, 指導員, 施設, 運営体制・制度
17	諸条件の違う学童形態の中で、同じような問題に突き当たり、かかえている悩み等は、それぞれあるが、子供達が安心して、安全に、のびのびと放課後を過ごせるように放課後子供事業として、施設充実等を行政的に進めていただきたいです。	子ども, <要望>, 施設, 行政, 運営体制・制度, 安全
26	子どもも保護者も安心していられる居場所作り(ホーム)であり、人として、あたり前に出来る事を身につけ、自ら考え、自ら行動出来るよう、指導し実践する。異年齢の子ども達とふれ合い、地域の方との交流もしながら、沢山の体験の中から、豊かな心と体を育む。指導員の収入も生活に役立つ程度の金額があれば指導員不足の解消にもつながるかも。お小遣い程度の収入では、なかなか指導員の確保が難しい。	子ども, 運営体制・制度, 保護者・家庭, 指導員, 子育て支援・保育, 地域, 雇用・勤務
29	施設面について 倉敷は現在、子供1人あたりの居住面積が国の基準に比べ狭く、子供達のケガの増加や精神的なストレスが大きいのではないかと、心配しています。保育場所が一部屋しかなく、例えば、障害の子供さんが興奮した時や、体調の悪い子を、ゆっくり寝かせる部屋がない。余裕があれば6年生までと市は言うが、その前に、施設面を是非充実して欲しい。指導員の待遇について 現在、全員がパートです。せめて1人でも専従として、準公務員扱い(以前、関東で働かされていたかたは、準公務員扱いの形態だったそうです)の方がいれば、保育がもっと充実していくのではないかと思います。	子ども, <要望>, 指導員, 施設, 子育て支援・保育, 行政, 雇用・勤務
33	本当なら家族と過ごす事が子どもにとって一番大事。家族の者が「お帰り！」と言って迎えてくれるのが一番安心だと思う。でも実際それが出来ないで学童保育があると思うので、学童保育は家庭的な居場所であって欲しいと思う。	子ども, <要望>, 保護者・家庭

175	<p>個々の家庭の事情に合わせた受け入れ体制にする事が必要と思われませんが、集団が大きくなるとむずかしくなるのが現状です。障害児は出来るだけ受け入れていきたいと思いますが、通常の指導員数より増員したほうが、他の子どもにも、当人にとっても良いように思います。そのための資金援助も行政の方からして頂きたいと思います。(現在の加算では、不足だと思っています。)</p>	<p>子ども、〈要望〉、行政、運営体制・制度、保護者・家庭</p>
183	<p>現在、平日利用は25名程度の学童です。障害をもつ児童が4名利用しています。その他に、支援学級にはいっている児童も含んでおり、指導員4名にて対応しています。集団の中に、はいつていけない時も、多々ありますが、指導員が少しバックアップする形をとる時もありますが、なるべく、自然に集団遊びができるよう、心がけているのですが、、、。両親が忙しく、手作りおやつ、手遊び等、経験の少ない子供たちに経験・体験の場として、学童があればと思います。また、働く保護者、障害をおもちの保護者の方々に安心して、また、相談していただける場でありたいと思っております。</p>	<p>子ども、〈要望〉、指導員、子育て支援・保育、運営体制・制度、保護者・家庭</p>
207	<p>各自治体が、何か問題が学童保育であった場合でも責任を持って対処してくれるサポート体制がほしい。資格の有無に関係なく待遇してほしい(給料労働時間等)。保護者との連携がもっとスムーズにできたらいい。問題行動の多い子の親ほど無関心。伝えるすべもない。</p>	<p>子ども、〈要望〉、保護者・家庭、指導員、子育て支援・保育、行政、雇用・勤務</p>
210	<p>子どもたちが落ち着いて過ごせるスペースの確保、外で元気に遊べる場所がある施設で保育ができればと思います。学校から歩いて帰って来れる距離にあって欲しい(学区外でタクシーなどで来て保護者の負担にならない様に)と思います。指導員が安定して働けるような(アルバイト的ではない)ところであって欲しいと思います。</p>	<p>子ども、〈要望〉、保護者・家庭、指導員、施設、子育て支援・保育、雇用・勤務</p>
214	<p>保護者から子どもの養育をうばってしまわない学童保育と保育所。子育てをしながら親として成長できるように応援できる学童保育。肉親の愛の大切さを重視する学童保育。子育てのたのしさを実感できるような社会になってほしい。保護者がゆっくり、じっくり楽しんで子育てしてほしい。</p>	<p>子ども、〈要望〉、子育て支援・保育、保護者・家庭</p>
233	<p>児童数が減少しつつある地域で、希望する子供は誰でも入会できるという現状で、学年によっては、ほとんどの子が学童保育を利用しているということもあり、ただ受け入れて、預かっているだけではない、大きな役割があると感じています。“地域の人とつながりながら、親どうし・子供どうし、共に育っていく場所”そんな児童クラブをめざしています。指導員として、専門的な知識や技術を身につけていく前むきな姿勢が必要であり、何より地域の人たち(子供も含めて)を、愛する気持ちが必要だと思っています。</p>	<p>子ども、〈要望〉、指導員、地域、運営体制・制度、保護者・家庭</p>
238	<p>運営委員会方式ではなく、市の運営で、指導員も公務員にしてほしい←保護者役員が指導員の負担が大きすぎ、また、保育内容や指導員の質など充実できないため。母子家庭などに対する、公の機関からの補助がほしい。指導員の待遇が低すぎるため、指導員のなり手が少ない。また、パート的、近所のおばちゃん的指導員になりがちなので、学校の教員程度の待遇にしてほしい。</p>	<p>〈要望〉、運営体制・制度、保護者・家庭、指導員、子育て支援・保育、行政、雇用・勤務</p>

